

II

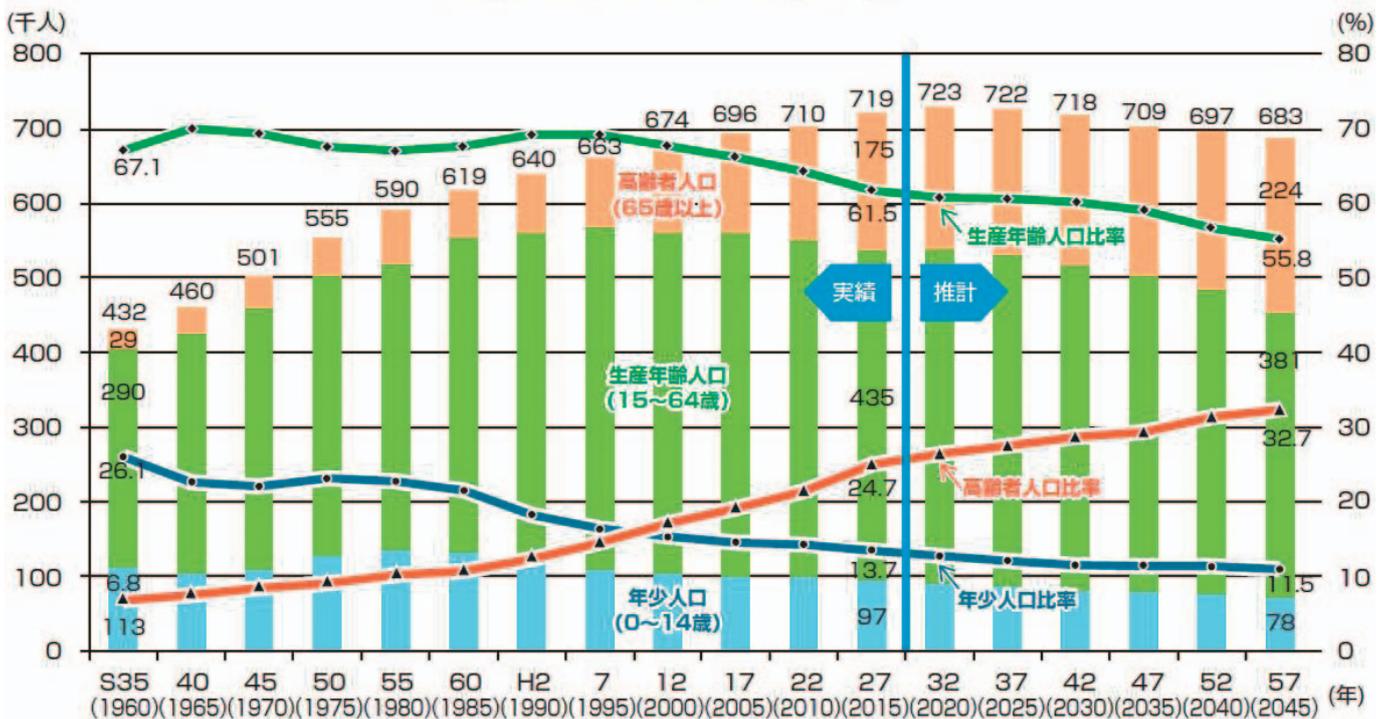
財団を取り巻く現状と課題

1 社会情勢(背景)

日本の総人口は、平成22年をピークに減少し始めており、平成30(2018)年10月1日現在、1億2,644万人となっています。国の推計によると、総人口はその後も減少を続け、令和27(2045)年には1億642万人になるとされており、その間に生産年齢人口^{※2}は5,584万人、年少人口^{※3}は1,138万人に減少する一方、高齢者人口^{※4}は3,920万人に達し、高齢化率も36.8%まで増加すると見込まれています。

岡山市においても、総人口は令和2(2020)年の72.3万人をピークに減少に転じ、令和27(2045)年には68.3万人となる見通しです。人口構成についても、生産年齢人口は38.1万人、年少人口は7.8万人にいずれも減少する一方で、高齢者人口は岡山市の人口の32.7%を占める22.4万人まで増加し、国と同様の傾向で変化することが見込まれています。

岡山市の将来人口と人口構成比の見通し



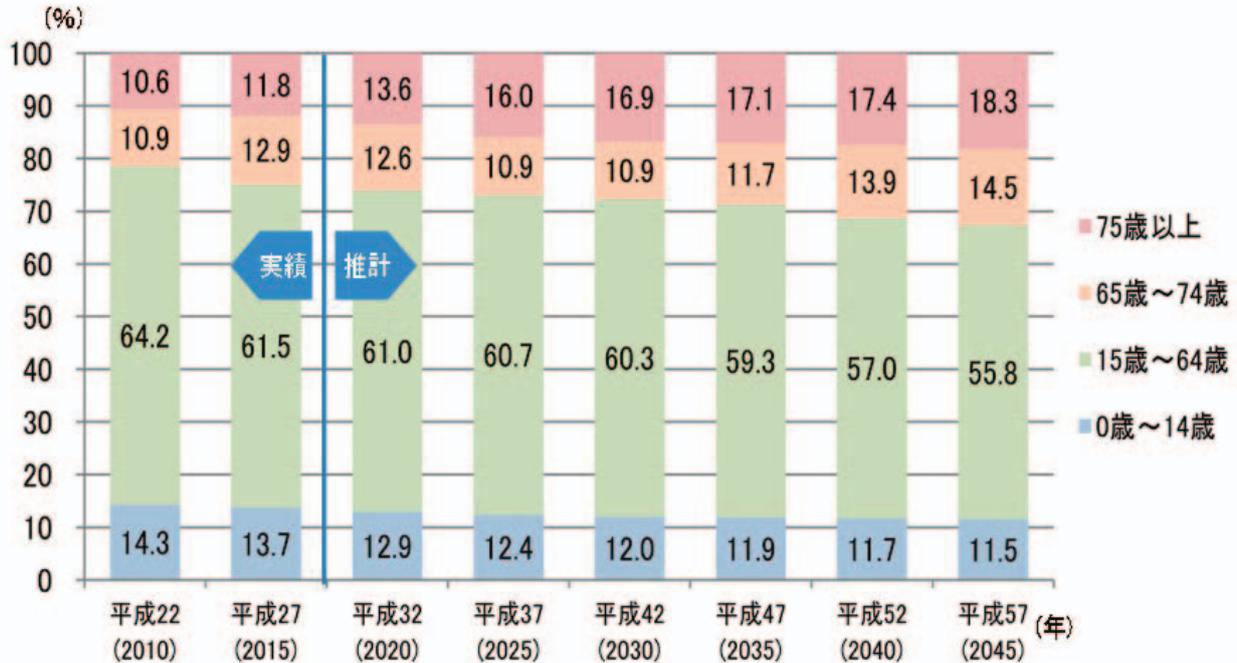
「岡山市第六次総合計画」より

用語解説

- ※1 PDCAサイクル: Plan(計画) → Do(実行) → Check(評価) → Act(改善)の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する方法のこと。
- ※2 生産年齢人口: 労働意欲の有無に関わらず日本国内で労働に従事できる15歳以上65歳未満の年齢に該当する人口。
- ※3 年少人口: 0歳から14歳以下の人口。
- ※4 高齢者人口: 65歳以上の人口。

II 財団を取り巻く現状と課題

岡山市の年齢4区分別人口構成比の見通し



(注)人口等は現在市域。人口総数には年齢「不詳」を含む。ただし、人口比率は年齢「不詳」を除いて算出。
 (資料)総務省「国勢調査」(実績値)、岡山市推計結果(推計値)

(平成29年2月作成)

「岡山市第六次総合計画」より

人口減少・少子高齢化の急速な進行に伴い、労働力や地域活動の担い手不足が起きており、医療・介護費の増大等による給付と負担のアンバランスがもたらす財政状況の悪化など、様々な社会的・経済的な課題が深刻化しています。また、課題そのものも時代の変化とともに、複雑多岐にわたるようになりました。

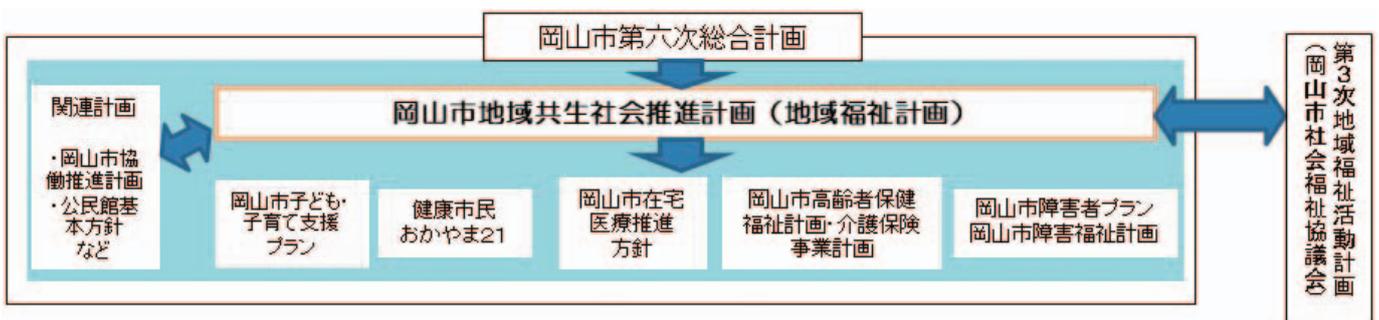
こうした課題に対応するために、国は平成29年に「制度・分野ごとの『縦割り』や『支え手』『受け手』という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」を意味する「地域共生社会」の実現を目指した改革を行っていく方針を掲げました。この方針をうけ、社会福祉法など必要な関係法令が改正され、財団も「地域共生社会」の実現に向けた包括的な支援体制の整備を進めています。

2 岡山市の取り組み

岡山市は「時代の変化や要請、市民の課題意識を踏まえつつ、固有の強みや特性を最大限に活かしながら、活力があふれ、市民が愛着と誇りを持ち、未来へ躍動する都市の実現に向け、岡山市のさらなる発展と市民の満足度の向上をめざした都市づくり」を進めるため、平成28年度からの10年間を計画期間とする「岡山市第六次総合計画」※1を策定しました。

また、この「岡山市第六次総合計画」を上位計画に位置付け、保健・医療・福祉に関する計画として「岡山市子ども・子育て支援プラン」※2「健康市民おかやま21」※3「岡山市在宅医療推進方針」※4「岡山市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」※5「岡山市障害者プラン及び岡山市障害者福祉計画・岡山市障害児福祉計画」※6等を策定し、これらの計画に沿って施策を実施しています。

さらに、先に述べた「地域共生社会」の実現に向け、平成30年4月に「誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最初から最期まで続けることができ、地域で生きがいを持って暮らし、地域でともに支え合う地域共生社会の推進」を目的に、岡山市の保健・医療・福祉関連の計画や施策の基本的な指針として「岡山市地域共生社会推進計画（地域福祉計画）」を策定し、各分野の取り組みの強化を図っています。



「岡山市地域共生社会推進計画」より

用語解説

- ※1 岡山市第六次総合計画：岡山市の「将来都市像」を定め、「都市づくりの基本目標」と、その実現に向けた「都市づくりの基本方向」を明らかにした、平成28年度から平成37年度までの10年間を期間とする岡山市の中長期的なまちづくりの指針。
- ※2 岡山市子ども・子育て支援プラン：「次世代育成支援対策推進法」第8条第1項に基づき、すべての子育て家庭を対象として、岡山市が今後進めていく子育てや子ども・若者への支援施策の方向性や目標を総合的に定めたもの。
- ※3 健康市民おかやま21：健康増進法に基づき、市民の健康増進の総合的な推進を図るための方向性や目標を定めた計画。市民、企業、専門団体、地区組織、健康ボランティア、公民館、学校園等との連携による健康づくりを推進している。
- ※4 岡山市在宅医療推進方針：全ての市民が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるように、保健・医療・福祉分野の連携を強化するとともに、安心を支える最適な地域医療システムを構築し、予防、診療から介護まで切れ目のないサービスを受けられる仕組みづくりについて今後の施策・事業展開の方向性を定めたもの。
- ※5 岡山市高齢者福祉計画・介護保険事業計画：岡山市が目指す「住み慣れた地域で安心して暮らせる健康・福祉のまちづくり」の実現に向けた高齢者福祉施策の個別計画。高齢者に関する保健福祉施策を総合的・体系的に展開し、岡山市の地域包括ケアシステムを深化・発展させるとともに、地域共生の社会づくりを推進する。
- ※6 岡山市障害者プラン及び岡山市障害者福祉計画・岡山市障害児福祉計画：国の障害者計画と岡山県の障害者計画を基本とし、岡山市の状況を踏まえ、障害者施策のうちでも特に身近で重要なサービスである障害福祉サービス、児童福祉サービス、相談支援及び地域生活支援事業についてなど、障害者施策全般を総合的に推進するための岡山市の計画。

II 財団を取り巻く現状と課題

3 財団の取り組み

財団における公益目的事業^{*1}は、「福祉・健康・生涯学習推進事業」、「児童福祉推進事業」、「地域包括支援事業」、「高齢者・障害者福祉推進事業」、「施設管理運営事業」の5つで構成されており、世代や障害の有無等を問わず、岡山市民の福祉の向上のために事業を実施してきました。

① 福祉・健康・生涯学習推進事業

ニーズに即した各種講座やイベント等の開催を通して、福祉専門職やボランティア、地域活動の担い手の育成を図るとともに、健康寿命の延伸につながる心とからだの健康づくりの支援、子育て世代や社会的弱者に対する福祉支援等に積極的に取り組み、岡山市民の福祉の向上と健康増進を推進しています。

●実施講座数

	講座内容	講座数	受講者数
人材養成事業	福祉専門職やボランティア、地域活動の担い手を養成する講座 (認知症介護実践研修・介護職スキルアップ・手話学校・ウォーキングサポーター養成講座 など)	208	4,980人
心とからだの健康事業	健康増進・介護予防を目的とした運動講座やいきがいづくりを応援する講座 (筋力UPトレーニング・ヨガ・水中ウォーク・園芸 など)	324	7,277人
福祉支援事業	子育て世代や障害者等に対する支援として、知識習得講座や社会活動のきっかけとなる交流の場を提供する講座 (運動あそび講座・障害者支援ダンス教室 など)	159	3,848人
	合計	691	16,105人



プールでの健康づくり講座



地域人材養成講座

- 年間イベント実施回数 102回 参加者 109,875人
- 運動施設(アスレチックコーナー) 利用者数 127,499人



イベント



アスレチックコーナー

② 児童福祉推進事業

児童館の管理運営を通じて、放課後の児童や幼児への健全な遊びの場の提供や保護者への子育て相談等、子どもたちが健康で情緒豊かに育つための支援を行っています。なかでも幼児の会などの子育て支援の取り組みが、「乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育ての相談、情報の提供、助言その他援助を行うこと」を目的とした「地域子育て支援拠点事業^{※2}」と認められ、各ふれあい児童館で事業を実施しています。また、令和2年度から、放課後児童クラブ^{※3}の運営を開始し、次代を担う児童の健全な育成を支援します。

- ふれあい児童館年間利用者数
182,580人
- 地域子育て支援拠点事業
実施回数 767回
参加者数 57,366人
- 児童館での子育て相談件数
771件



児童館 絵本の読み聞かせ

用語解説

- ※1 公益目的事業：公益法人認定法上の概念で、「学術、技芸、慈善その他の公益に関する（同法の）別表各号に掲げる種類の事業」であり、「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与する」もの。
- ※2 地域子育て支援拠点事業：公共施設や保育所、児童館など身近な地域において乳幼児（主として概ね3歳未満の児童）及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報提供、助言その他の援助を行うことで子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援することを目的とする事業。
- ※3 放課後児童クラブ：児童福祉法第6条の3第2項の規定に基づき、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に小学校の余裕教室や児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を提供して、その健全な育成を図るもの。

II 財団を取り巻く現状と課題

③ 地域包括支援事業

地域包括支援センターの運営を通じて、地域高齢者の心身の健康維持、保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助・支援を包括的に行っています。また、高齢者の総合相談窓口として、環境に応じた様々な相談への対応を行っています。団塊の世代がすべて75歳以上となる令和7年（2025年）の超高齢社会を見据え「医療・介護・介護予防・住まい・生活支援」の5つが一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを継続的かつ着実に実施することにより、地域住民の保健・医療の向上及び福祉の増進を目指しています。

また、岡山市の指針に基づき、高齢者やその家族から認知症に関する相談を受け、適切な機関・制度・サービスにつなぐなど、高齢者が認知症になっても、住み慣れた地域で生活を継続するための支援体制の構築を図っています。加えて、地域住民や、学校・企業などを対象に認知症についての正しい理解を広げ、地域で支えるまちづくりを支援しています。

- | | | |
|---------------------|--------|---------|
| ●総合相談支援※1 | 相談人数 | 11,011人 |
| ●認知症サポーター養成講座※2 | 受講者 | 3,510人 |
| ●認知症支援チーム推進員による相談支援 | 延べ支援回数 | 416人 |



地域包括支援センター（総合相談支援）



認知症サポーター養成講座

④ 高齢者・障害者福祉推進事業

介護予防センターの運営を通じて、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、管理栄養士、介護福祉士、健康運動指導士の多様な専門職が協力しながら、高齢者を年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく、人と人とのつながりを通じて参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進しています。また、専門職が地域に出向いて個別に指導を行う等、自立支援のための取り組みを進めています。

- 介護予防教室^{※3} 38か所 延べ参加者数15,563人
- あっ晴れ!もも太郎体操^{※4}活動団体 277団体
- アドバイス訪問^{※5}事業(ケアマネジメント訪問事業含む) 186人 202回訪問

ケアマネジメント・ホームヘルプ・デイサービス等の事業では、支援が必要な高齢者及び障害者に対し、「尊厳の保持」と「自立支援」及び「相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現」を基本に、必要に応じた適切なサービスの提供を行っています。

- ふれあいシニアカレッジ^{※6} 参加者数 100名
- ケアマネジメント事業 利用者 1,135名
- ホームヘルプ事業 利用者 767人 延べ利用回数83,748回
- デイサービス事業 利用者 355人 延べ利用回数31,217回



デイサービス



ふれあいシニアカレッジ

用語解説

- ※1 総合相談支援:高齢者やその家族などからの幅広い相談内容に対し、適切なサービス、関係機関や制度利用につなげる支援のこと。
- ※2 認知症サポーター養成講座:認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする援助者を養成する講座。
- ※3 介護予防教室:65歳以上の岡山市民を対象に、財団の専門職が出向き、体力の衰えを防ぐ方法、栄養バランス、お口の体操、もの忘れ予防の生活術などを講話や「あっ晴れ!もも太郎体操」の実施により伝える教室。地域の方と交流しながら、介護予防を通した生きがいのある地域づくりと継続した介護予防活動に取り組むための拠点づくりを行っている。
- ※4 あっ晴れ!もも太郎体操:主に高齢者を対象とした市民の健康寿命延伸・介護予防のため、財団が考案した体操。「ストレッチ体操」「お口の体操」「筋力トレーニング」の3つの運動を組み合わせた内容。
- ※5 アドバイス訪問:高齢者が年齢による体力の衰え、病院からの退院直後で心身機能の低下がみられる等で、在宅生活に不安をかかえながら適切な相談先がない場合に、財団の専門職が出向き、ご本人の状態や自宅の環境などを考慮した介護予防アドバイスを行っている。
- ※6 ふれあいシニアカレッジ:シニア世代に必要な知識を身につけるとともに、日常生活の中で行う簡単な体操を行い健康増進・介護予防を行う講座。同時に、参加者同士の交流を深め、楽しく、生きがいのある生活を送ることも目的としている。

II 財団を取り巻く現状と課題

⑤ 施設管理運営事業

岡山市の福祉・健康・生涯学習の拠点施設であるふれあいセンターや岡山市ウェルポートなださきの機能を最大限に発揮するため、岡山市をはじめ、岡山市社会福祉協議会などの関係団体との連携を図りながら、管理運営の効率化、施設の利活用等に取り組み、地域福祉の充実に貢献しています。

- 年間来館者数 ふれあいセンター192万人 岡山市ウェルポートなださき38万人
- 情報コーナー利用者 26万人



岡山ふれあいセンター



西大寺ふれあいセンター



北ふれあいセンター



西ふれあいセンター



南ふれあいセンター



岡山市ウェルポートなださき



情報コーナー（岡山ふれあいセンター）

（掲載数値はH30年度実績）